

パスワードだらけ

国際東アジア研究センター 主任研究員 坂本 博

コンピュータをはじめとする IT 機器なしでは生活できない世の中になった。IT によってこれまでの生活が一変し、さらには別の次元に移ろうとしている。今後どのような世の中が待っているのかは予想がつかない。しかしながら、いくら IT が発展してもこれだけはおそらくしばらくは変わらない、むしろ不便になっていくのではないのだろうか。

コンピュータを操作し、自分専用のサイトに移るときは必ずユーザーID やパスワードを要求される。もちろんセキュリティが理由で、これ自体は納得のいく話である。問題はここからである。この ID とパスワードは専用サイトの数だけ要求されるということである。

例えば、ウェブメール、買い物サイト、ネットバンキング、などなど。インターネットの環境で一日いればおそらく相当数の専用サイトにアクセスするだろう。もちろん普段から頻繁に利用しているサイトの ID やパスワードを覚えることはそれほど苦にはならない。しかし、ユーザーがめったに使わない専門サイトでも上記の ID やパスワードを要求されたらどうであろう。しかも、新規で開設する際には ID やパスワードを考えなければならない。さらに、そのパスワードを忘れないためのキーワードを設定させられるサイトも存在する。ここまでくれば苦痛以外の何物でもない。

苦痛は、設定時だけではない。これらをどこかに記録するなり、保管する必要があるからである。しかも、「パスワードは厳重に保管してください」と「丁寧」な注意書きまであったりする。もちろん言いたいことは分かる。自分がそのサイトしか専用サイトを持たないのであれば全く問題はない。しかし、そんなサイトがいくつも存在しているわけである。サイトの運営管理者はユーザーがほかにもたくさんのサイトを管理しなければならないといった現実をどれだけ理解しているのだろうか。

とはいえ、現状はありとあらゆるサイトが ID やパスワードを要求する。ユーザーはこれを何とか対処する方法を自ら考えなければならない。例えば、パスワードを統一させるという方法が考えられるが、これもパスワード設定の条件がサイトによってさまざまなので、そんなに単純ではない。だからと言って、管理法をわざわざ紹介する人もいないだろうし（せいぜいヒントまでだろう）、自らも管理法は他言しない方がいい。

そんなわけで、IT の発展による ID とパスワードの増大はこれからも続くと思われる。この IT がもたらす不便さを感じるたびに、国民1人1人に「背番号」をつけ、これを認証させることで各種専用サイトに導けるようなシステムを構築してほしいと思うのだが、どうなのだろう。それでもプライバシーを理由に「不便」な ID、パスワードシステムを選択する人が多数派なのかもしれない。